



～タイ・教育旅行の御案内～





タイの基本情報

- 人口：6,900万人（2016年現在）
- 面積：51万3,120km²（日本の約1.4倍）
- 首都：バンコク
- 公用語：タイ語
- 民族：タイ族（75%）、中華系（14%）、その他（11%）
- 政体：立憲君主制
- 宗教：上座部仏教（95%）
- 気候：熱帯モンスーン気候 乾季11-2月、暑季3-5月、雨季6-10月
- 通貨：バーツ（1バーツ≒約3.5円） ■時差：日本時間マイナス2時間



プーケットの基本情報

- 人口：40万人（2016年現在）
- 面積：543 km²（日本の約1.4倍）
- 公用語：タイ語
- 宗教：上座部仏教（60%）、イスラム教（35%）
- 気候：熱帯モンスーン気候 乾季11-3月、暑季4-5月、雨季6-10月
- 平均気温：乾季 32-33℃、暑気34-35℃、雨季30-31℃
- 主産業：観光事業

別名、東洋の真珠！

気候

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
バンコク	平均最高気温 (°C)	32.6	33.9	34.9	36.2	35.6	34.5	33.7	33.8	33.5	33.1	33.4	32.7
	平均最低気温 (°C)	27.3	28.6	29.8	30.9	30.1	29.7	29.3	29.1	28.7	28.4	27.9	26.6
	平均降水量 (mm)	15	18	39	87	246	162	171	208	349	302	48	7
プーケット	平均最高気温 (°C)	32.0	33.0	33.3	33.2	32.3	31.7	31.4	31.2	30.9	31.0	31.5	31.4
	平均最低気温 (°C)	27.6	28.1	28.5	28.9	28.8	28.6	28.3	28.1	27.8	27.5	27.4	27.4
	平均降水量 (mm)	75	60	154	150	317	329	285	398	387	333	239	97

ベストシーズンとスクールホリデー

- 降水量が少なく、気候が安定している11月から2月の乾季がお勧めとなります。
- 学校は2学期制となっており、前期（5月から10月）、後期（10月から3月）となります※私学の学校はお休み期間が多少異なります。
- 4月はタイの正月もあり学校が休みとなりますので御注意ください。
- 日本と同様に小学校（6年）と中学校（3年）は義務教育となり、高等学校（3年）と大学（4年は）任意となっております。

日本とタイとの歴史的つながり

タイと日本は600年に渡る交流の歴史を持ち、伝統的に友好関係を維持しております。近年は両国の皇室・王室間の親密な関係を基礎に、政治、経済、文化等、幅広い分野で緊密な関係を築いており、人的交流は極めて活発です。

世界遺産アユタヤには当時を偲ばせる「日本人街跡」があり、1612年にこの地で活躍した山田長政の足跡に触れる事もできます。

タイの国民は車、冷蔵庫、テレビ、洗濯機、掃除機、炊飯器など、生まれながらにMADE IN JAPANの製品に囲まれた生活をしており、日本に対しては親近感を覚える国民が多くいます。

タイ国内の日本語教育

国際交流基金による調査によれば、タイにおける日本語教育機関は公私あわせて約465機関ございます。また、日本語学習者はおよそ13万人おり、9年前の調査時と比較すると70%近く増加となっております。特に中等教育段階（中、高等学校）での日本語学習者は約9万人へと増加しております。

これに伴い日本語を教える教員も約1500人へと増加しております。

タイの大学では、大学入試の際に第二外国語の試験科目として日本語を選択できるようになっており、日本語の受験者数も多くなっております。

タイでの教育制度

タイの教育制度は、日本と同様、6・3・3制となり原則として就学前教育（幼稚園）、6年間の初等教育（小学校）、3年間の前期中等教育（中学校）、3年間の後期中等教育（高等学校）、4年間の高等教育（大学）となっております。学校は原則として国立学校または私立学校になります。（ただし、バンコク都など、自治体が設置した学校も一部あります）

日本とは違い2学期制を採用しております。

前期：5月中旬から10月上旬まで

後期：11月上旬から翌年3月中旬まで

※学校によって多少時期が異なる場合がございます。

タイの教育旅行をお勧めする理由



ポイント1 宗教的背景

国民の95%は敬虔な仏教徒であり、思想的に日本人と近いものがあると言えます。

また、タイはインドシナ半島の中心に位置し、一度も植民地化されておらず、長い歴史の中で独自の文化を育んできております。観光立国として日本よりも長い歴史を有しており、すこし街を歩くだけで、仏教的、キリスト教的、ヒンズー的な建物や人々、またその独特な空気感とともに、「多文化共生社会」を体感して頂けます。

タイの教育旅行をお勧めする理由

ポイント2 親日国&共通言語

近年の日本ブームもあり国民はとても親日的です。

日本の文化、食にタイ人が理解を持って接してくれますので、交流がスムーズに進み、第一言語がタイ語のため、日本側との交流の際の共通言語は、英語になります。

ネイティブな発音ではなく学生にも聞き取りやすい英語で、生徒さんの勉強にもなり、何より交流が容易となります。



タイの教育旅行をお勧めする理由



👉 ポイント3 安全性

お客様の中には、タイの安全性について異を唱える方がいらっしゃるかもしれませんが、日本から年間約150万人がタイを訪れており、約7万人強の日本人がタイで生活をしております。また、タイで生活をしている日本人は年々増えており、仮に危険な国であれば、いち早く日系企業が駐在員を日本に帰国させるなどの対応をするはずで、駐在員が増えている＝安全に問題が無いと言えます。

バンコクなどの大都市には、日本語が可能なスタッフが常駐している大型病院もあり、万が一の際の医療にも心配ありません。

現在の軍事政権も安定しており大きなトラブルは発生しておりません。

タイの教育旅行をお勧めする理由



👉 ポイント4 日本からの容易なアクセス

東京、大阪、名古屋、福岡、札幌からはバンコクまで直行便が就航しております。こちら以外にも仙台、沖縄などからは隣国を経由してアクセスする事が可能です。

★成田から毎日8便

★羽田から毎日8便

★関西空港から毎日3便

★名古屋空港から毎日3便

★福岡空港から毎日1便

★札幌空港から毎日1便

＜バンコクからタイ国内地方都市へのアクセス＞

プーケット 毎日29便以上

チェンマイ 毎日23便以上

※ドンムアン空港利用とLCCは除く

教育旅行としてのプーケット

一般的には「プーケット＝リゾート」のイメージが強く、教育旅行には縁が薄いと思われがちですが、実はリゾート地としての一面は島の西側に集中しております。

教育旅行では西側ではなく東側にあるプーケットタウンに宿泊する事により、夜の繁華街や喧騒から隔離することが可能です。

多くの教育機関がプーケットタウンにあり、街を中心とした行程を組む事で移動時間を短くすることができます。

19世紀に錫の採掘と貿易で栄えた時代に建てられた、シノポルトギース様式の屋敷やショップハウスが残り、古の時代の歴史学習も可能です。

体験学習だけでなく、ビーチを満喫する事も可能です。

プーケットでのB & Sプログラムの一例

1	10:00 学校到着 10:15 日本側とタイ側で挨拶 10:30 グループのマッチング（タイ・日本で生徒をグループ分けして組ませる） 10:45 昼食会場へ移動（注文及びそのまま昼食）
2	12:00 日本の生徒がショーを披露 12:15 タイの生徒がショーを披露
3	12:30 グループごとにスポーツ交流 13:30 グループごとに文化交流
4	14:50 終了の会 15:00 学校出発

1 挨拶及びグループマッチングと昼食



まずは顔合わせをし、昼食を共に取りながら親睦を深めます。



2 両国の生徒によるショー



両国の生徒さんにより各々の国らしいショーや歌を披露していただきます。

3 スポーツと文化交流



グループごとにムエタイ、タックロー、タイダンス、フルーツカービング、タイ語教室など生徒間で交流を図ります。



4 交流会終了

学校交流終了

現地の受け入れ学校の御案内

- 学校名：SATREE PHUKET SCHOOL（サットリープークット）
- 創立：1909年
- 学年：中学・高等学校
- クラス数：中学校 14クラス
 高等学校 13クラス
- 生徒数：全体で4,800名
- 教員：日本語教師2名
- 特徴：高校1，2年では日本語テストやイベントに積極的に参加
 3年では日本への研修も含めて徹底した指導を行う



タイヤプーケットでの教育旅行と聞かれても、ピンと来ない方も多いかと思いますが、社会的背景や親日国家である事、GDPが毎年4%程度の成長をしているという社会環境からも、教育旅行には充分対応可能であると判断しております。現に地方自治体レベルによる交流は進んでおり、毎年訪問される学校もございます。

アジアの教育旅行としては台湾、マレーシア、シンガポールあたりが充実しておりますが、そろそろ学校側でも新しいディスティネーションを検討しているのではないのでしょうか？

そんな中、経済的にも成長中であり、日本との親交も深いタイという国でご検討頂いてみては如何でしょうか？

微笑みの国タイで、生徒さんの可能性と視野を広げるために、弊社としましても最大限のサポートをさせていただきます。皆様のお問い合わせ、ご来タイを心よりお待ちしております。